

みやぎ経済月報

(2019年2月)

平成31年3月1日

	目	次	
I	本県の経済概況	1
II	主な指標の動き	3
1	生産		
	鉱工業生産指数	12月	3
2	住宅投資		
	新設住宅着工戸数	12月	3
3	公共工事		
	公共工事請負金額	1月	3
4	個人消費		
	百貨店・スーパー販売額	12月	4
	コンビニエンスストア販売額	12月	4
	家電大型専門店販売額	12月	4
	ドラッグストア販売額	12月	5
	ホームセンター販売額	12月	5
	乗用車新車登録及び届出台数	1月	5
	仙台市消費者物価指数	12月	6
5	雇用		
	求人倍率	12月	6
	所定外労働時間	12月	7
	実質賃金指数	12月	7
	雇用保険受給者実人員	12月	7
6	企業倒産	1月	8
III	宮城県景気動向指数（概要）	9
IV	全国・東北等の景況	10
V	主要経済指標	14

利用される方に

■ この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

■ 資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によるもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

■ 数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 統計表の符号は次のとおりです。
 「▲」.....負数
 「…」.....数字が得られないもの
 「ー」.....該当数字がないもの

■ 内容についてのご照会、ご意見は、
 宮城県震災復興・企画部統計課
 （分析所得班）
 〒980-8570
 仙台市青葉区本町三丁目8番1号
 電話 022-211-2453（直通）
 にご連絡下さい。

■ 本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

宮城県統計課ホームページ
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/>









I 本県の経済概況

12月を中心とした宮城県経済の概要

経済活動は概ね高水準で推移しており、基調としては緩やかに回復しているものの、このところ弱い動きもみられる。

(変化方向※¹) 
前々月 前月 当月

指標	動 向	変化方向※ ¹
生 産	東日本大震災の影響があるなかで、持ち直しの動きとなっている。	
住宅投資	高水準で推移しているものの、減少の動きとなっている。	
公共投資	高水準で推移しているものの、減少の動きとなっている。	
個人消費	弱含みで推移しているものの、一部に持ち直しの動きとなっている。	
雇 用	高水準ながら足踏みがみられる。	
企業倒産	増加の兆しが見られる。	

※1…矢印は相対的な変化方向を示すものであり、絶対的な好況・不況の水準を示すものではないことに御留意願います。

○個別指標の動き（概要）

【生 産】

鉱工業生産指数（H22=100）（12月・速報値）は、前月比が2か月ぶりの上昇、前年同月比は7か月連続の低下。

【住宅投資】

新設住宅着工戸数（12月）は、前年同月比が全体で4か月ぶりの増加。
貸家は4か月ぶりの増加。
分譲住宅は3か月連続の増加。
持家は20か月連続の減少。

【公共投資】

公共工事請負金額（1月）は、前年同月比が全体で6か月連続の減少。
県は7か月連続の減少。
市町村は3か月ぶりの増加。
国は6か月ぶりの増加。
その他※²は6か月ぶりの増加。
※2…独立行政法人等、地方公社、その他

【個人消費】（百貨店・スーパー等、自動車、物価）

《百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、専門量販店（12月）》
百貨店・スーパー販売額は、全店舗比較で3か月ぶりの増加。既存店比較は3か月連続の減少。
コンビニエンスストア販売額は3か月ぶりの増加。
家電大型専門店販売額は3か月ぶりの増加。
ドラッグストア販売額は33か月連続の増加。
ホームセンター販売額は9か月連続の減少。
百貨店・スーパー及びコンビニエンスストア、専門量販店販売額計（参考）は3か月ぶりの増加。

《乗用車（1月）》

乗用車新車登録及び届出台数（普通、小型、軽自動車の合計）は、前年同月比が2か月連続の減少。
普通車は4か月ぶりの減少。
小型車は2か月連続の減少。
軽自動車は2か月ぶりの増加。

《物 価（12月）》

仙台市消費者物価指数（H27=100）のうち生鮮食品を除く総合指数は、前月比が5か月ぶりの下落、前年同月比は24か月連続の上昇。
生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は前月比が5か月ぶりの下落、前年同月比は13か月連続の上昇。
総合指数は6か月ぶりの下落、前年同月比は26か月連続の上昇。

【雇 用】

求人倍率（12月）は、前月差で有効が2か月連続の上昇。新規が2か月連続の上昇。
所定外労働時間（製造業、事業所規模30人以上）（12月）は、前年同月比（指数・H27=100）で3か月連続の低下。
実質賃金指数（製造業、事業所規模30人以上、H27=100）（12月）は、前年同月比で12か月連続の低下。
雇用保険受給者実人員（12月）は、前年同月比が2か月連続の減少。

【企業倒産】

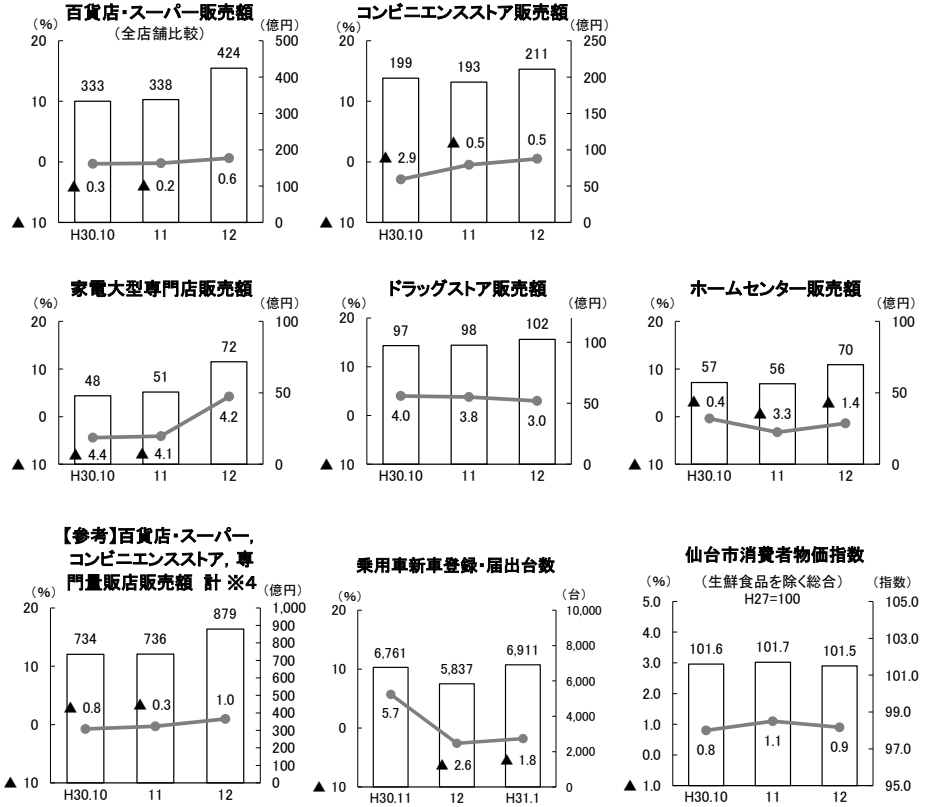
企業倒産（1月）は、前年同月比が件数で2か月ぶりの増加。負債総額は2か月ぶりの増加。
大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

※3…下線部は前月からの主な変更箇所。

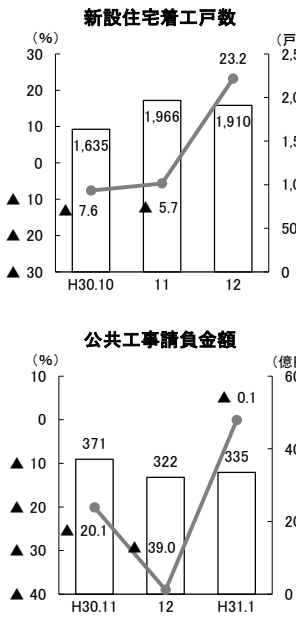
直近3か月の経済動向（前年同月比の動き）

は実数値（右目盛）
 は前年同月比の推移（左目盛）
 ※1 前月比 ※2 前月差 ※3 指数
 ※4 各公表値(端数処理済)の合算値に基づく概算値

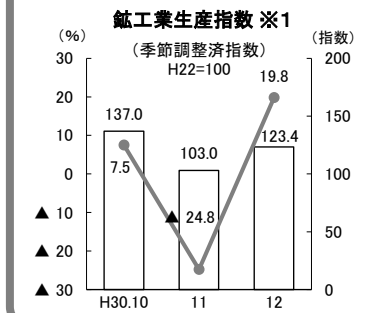
個人消費



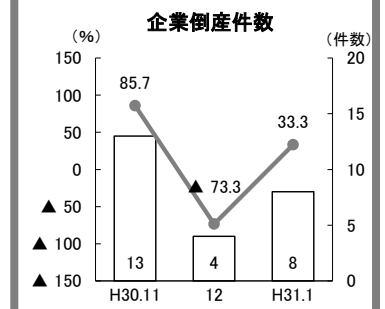
住宅投資 公共投資



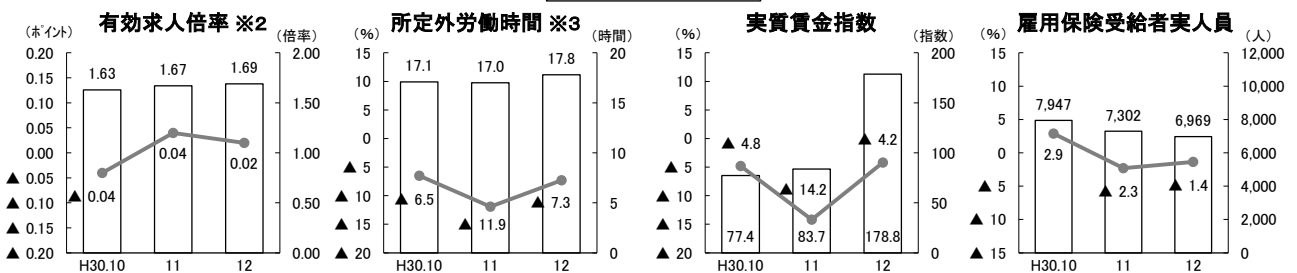
生産



企業倒産



雇用



II 主な指標の動き

1 生産

○ 鉱工業生産指数

12月の鉱工業生産指数（季節調整値，平成22年＝100）は123.4（速報値）で，前月比19.8%の上昇となり，2か月ぶりの上昇となった（図1，2）。

業種別にみると，電子部品・デバイス工業，生産用・業務用機械工業など9業種が上昇となった。一方で，食料品工業，輸送機械工業など8業種が低下した。なお，鉄鋼業は横ばいであった。

前年同月比（原指数）では22.1%の低下となり，7か月連続の低下となった。

（資料：県統計課）

→ 数値データは15ページに掲載

図1：前月比（季節調整済指数）

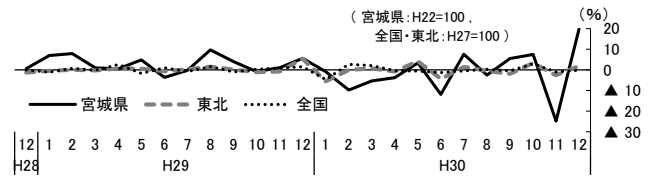
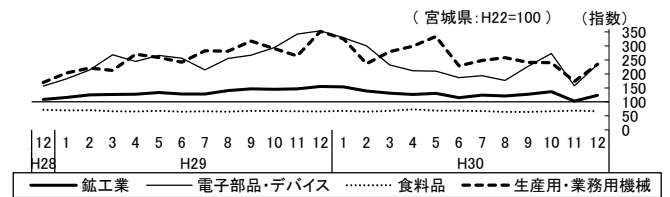


図2：季節調整済指数（宮城県）



2 住宅投資

○ 新設住宅着工戸数

12月の新設住宅着工戸数は1,910戸で，前年同月比23.2%の増加となり，4か月ぶりの増加となった（図3，4）。

用別に前年同月比をみると，貸家は57.3%の増加となり，4か月ぶりの増加となった。

分譲住宅は5.5%の増加となり，3か月連続の増加となった。

持家は1.0%の減少となり20か月連続の減少となった。

（資料：国土交通省）

→ 数値データは18ページに掲載

図3：前年同月比

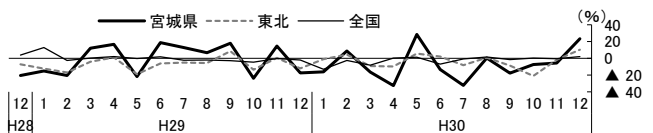
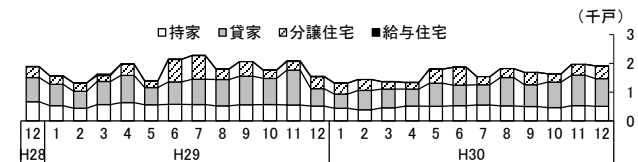


図4：戸数（宮城県）



3 公共投資

○ 公共工事請負金額

1月の公共工事請負金額は335億1,700万円で，前年同月比0.1%の減少となり，6か月連続の減少となった（図5，6）。

発注主体別に前年同月比をみると，県は37.2%の減少となり，7か月連続の減少となった。

市町村は41.0%の増加となり，3か月ぶりの増加となった。

国は43.9%の増加となり，6か月ぶりの増加となった。

その他（独立行政法人等，地方公社，その他）は57.0%の増加となり，6か月ぶりの増加となった。

（資料：東日本建設業保証(株)）

→ 数値データは20ページに掲載

図5：前年同月比

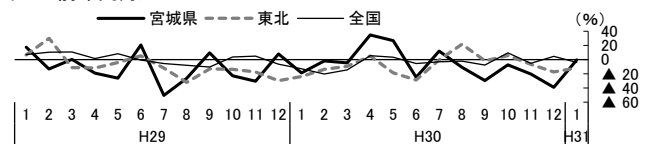
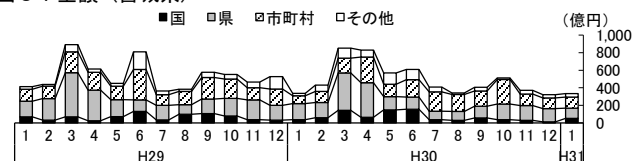


図6：金額（宮城県）



4 個人消費

(1) 百貨店・スーパー販売額

12月の百貨店・スーパー販売額は424億円で、全店舗比較では前年同月比0.6%の増加となり、3か月ぶりの増加となった(図7, 8)。既存店比較は2.0%の減少となり、3か月連続の減少となった。

商品目別(全店舗比較)で見ると、その他商品(医薬品, 化粧品, 洗剤, 書籍等)は3.7%の増加となり6か月連続の増加となった。飲食料品は0.3%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。身の回り品は1.5%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。一方、衣料品は1.3%の減少となり、3か月連続の減少となった。家具・家電・家庭用品計は0.5%の減少となり、3か月連続の減少となった。

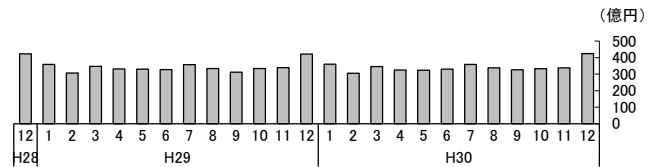
(資料: 東北経済産業局)

→ 数値データは21ページに掲載

図7: 前年同月比(全店舗, 百貨店・スーパー計)



図8: 金額(宮城県)



(2) コンビニエンスストア販売額

12月のコンビニエンスストア販売額は211億円で、前年同月比0.5%の増加となり、3か月ぶりの増加となった(図9, 10)。

(資料: 東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図9: 前年同月比

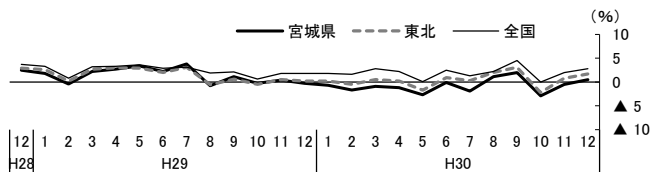
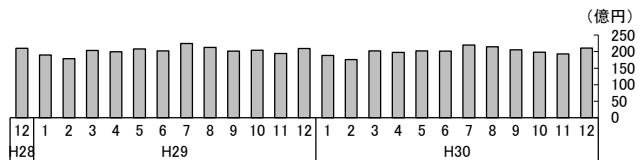


図10: 金額(宮城県)



(3) 家電大型専門店販売額

12月の家電大型専門店販売額は72億円で、前年同月比4.2%の増加となり、3か月ぶりの増加となった(図11, 12)。

(資料: 東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図11: 前年同月比

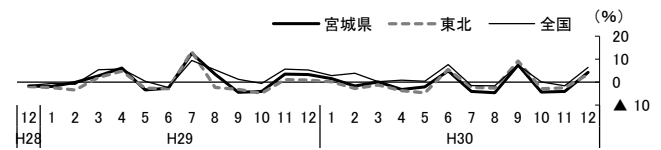
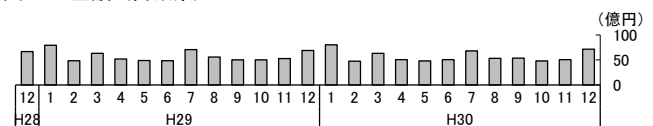


図12: 金額(宮城県)



(4) ドラッグストア販売額

12月のドラッグストア販売額は102億円で、前年同月比3.0%の増加となり、33か月連続の増加となった(図13, 14)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図13：前年同月比

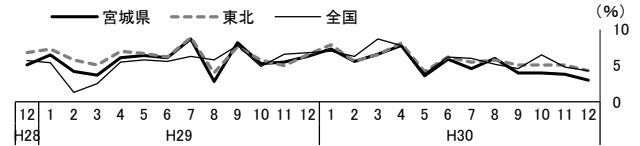
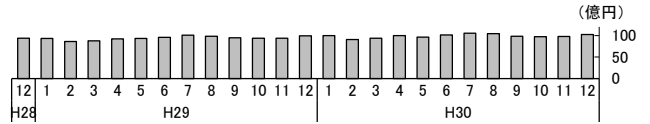


図14：金額(宮城県)



(5) ホームセンター販売額

12月のホームセンター販売額は70億円で、前年同月比1.4%の減少となり、9か月連続の減少となった(図15, 16)。

(資料：東北経済産業局)

→ 数値データは22ページに掲載

図15：前年同月比

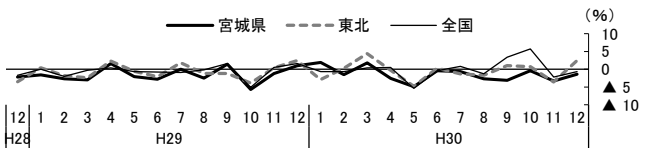
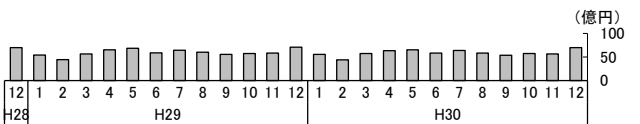


図16：金額(宮城県)



(6) 乗用車新車登録及び届出台数

1月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車, 小型乗用車, 軽乗用自動車の合計)は6,911台で、前年同月比1.8%の減少となり、2か月連続の減少となった(図17, 18)。

車種別に前年同月比をみると、普通車は3.3%の減少となり、4か月ぶりの減少となった。小型車は2.6%の減少となり、2か月連続の減少となった。軽自動車は0.2%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。

(資料：東北運輸局, 全国軽自動車協会連合会)

→ 数値データは25ページに掲載

図17：前年同月比(普通車, 小型車, 軽自動車)

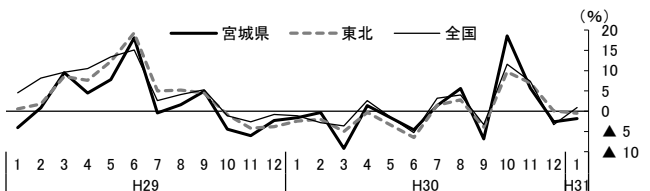
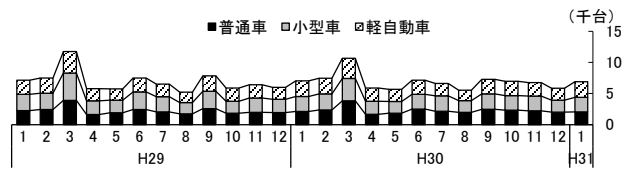


図18：台数(宮城県)



(7) 物価

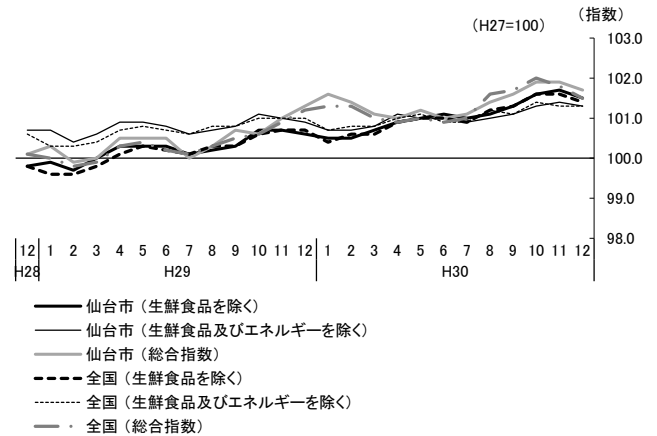
12月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成27年=100)は101.5で、前月比は0.2%の下落となり、5か月ぶりの下落となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)は101.3で、前月比0.1%の下落となり、5か月ぶりの下落となった。総合指数(同)は101.7で、6か月ぶりの下落となった(図19)。

前年同月比で見ると、生鮮食品を除く総合指数(同)は0.9%の上昇となり、24か月連続の上昇となった。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数(同)は0.4%の上昇となり、13か月連続の上昇となった。総合指数(同)は0.4%の上昇となり、26か月連続の上昇となった。

(資料：県統計課)

→ 数値データは34ページに掲載

図19：消費者物価指数



5 雇 用

(1) 求人倍率

12月の有効求人倍率(季節調整値、新規学卒者除きパートタイム含む)は1.69倍で、前月を0.02ポイント上回り、2か月連続の上昇となった。新規求人倍率(同)は2.70倍で、前月を0.27ポイント上回り、2か月連続の上昇となった(図20)。

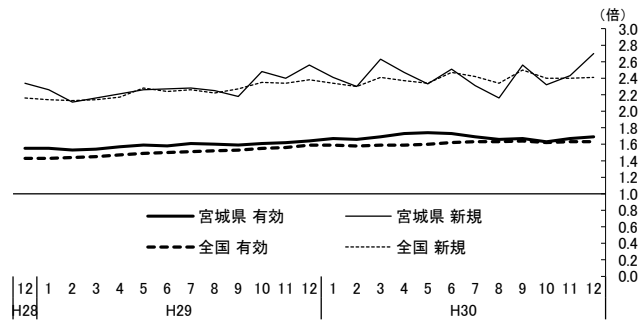
有効求人数及び新規求人数(原数値、新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効は前年同月比1.5%の増加となり、2か月連続の増加となった。新規は前年同月比0.1%の減少となり、2か月ぶりの減少となった。

新規求人数を産業別にみると、建設業、公務・その他などで増加となり、生活関連サービス業、娯楽業、運輸業、郵便業、製造業などで減少となった。

(資料：宮城労働局)

→ 数値データは30ページに掲載

図20：求人倍率(季節調整済)



(2) 所定外労働時間

12月の所定外労働時間（製造業，事業所規30人以上，1人平均月間）は17.8時間で，前年同月比（指数，平成27年=100）7.3%の低下となり，3か月連続の低下となった（図21，22）。

（資料：県統計課）

→ 数値データは32ページに掲載

図21：前年同月比（製造業・30人以上，指数(H27=100)）

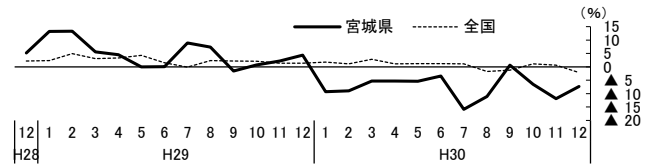
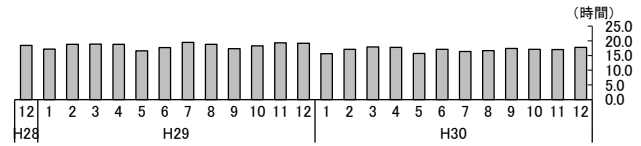


図22：時間数（宮城県，製造業・30人以上）



(3) 実質賃金指数

12月の実質賃金指数（平成27年=100，現金給与総額，製造業，事業所規模30人以上）は178.8で，前年同月比4.2%の低下となり，12か月連続の低下となった（図23，24）。

（資料：県統計課）

→ 数値データは32ページに掲載

図23：前年同月比（製造業・30人以上）

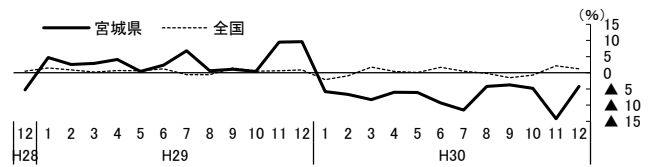
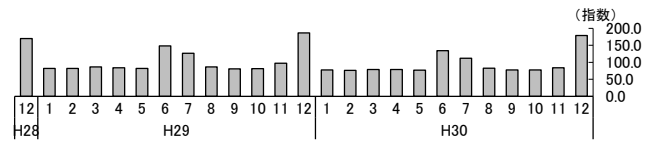


図24：指数



(4) 雇用保険受給者実人員

12月の雇用保険受給者実人員は6,969人で，前年同月比1.4%の減少となり，2か月連続の減少となった（図25，26）。

（資料：宮城労働局）

→ 数値データは32ページに掲載

図25：前年同月比

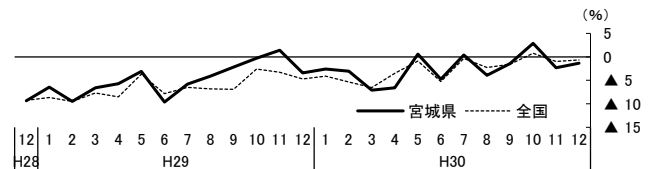
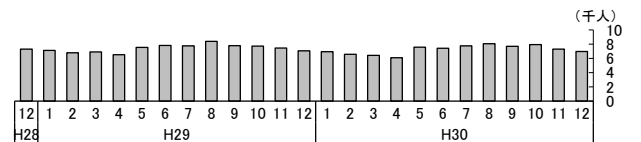


図26：人数（宮城県）



6 企業倒産

1月の企業倒産（負債総額1,000万円以上）は8件で、前年同月比33.3%の増加となり、2か月ぶりの増加となった（図27）。負債総額は18億600万円で、前年同月比115.0%の増加となり、2か月ぶりの増加となった（図28）。

大型倒産（負債総額10億円以上）は発生しなかった。

不況型倒産（販売不振、売掛金回収困難、既往のシワ寄せ（赤字累積））の件数は5件となり、全体に占める構成比は62.5%となった。

（資料：㈱東京商工リサーチ）
→ 数値データは33ページに掲載

図27：前年同月比（件数）

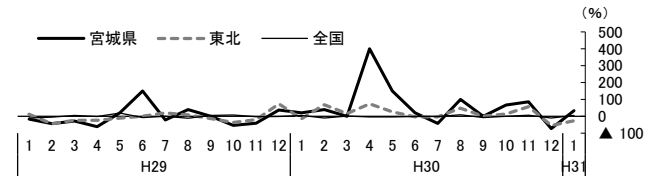
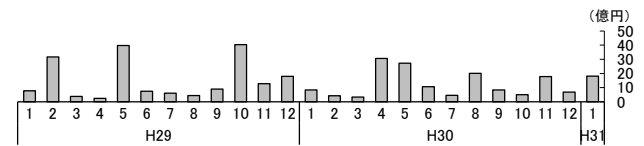


図28：負債総額



【用語解説】

- **指数**：ある統計データについて、100又は1を基準とした数値で表し、時間的な変化や比率などをわかりやすくしたもの。

（例）りんごの価格の指数を求めてみます。基準年を平成27年とした場合、平成27年のりんごの価格指数は100となります（H27=100）。りんごの平成27年の平均価格が30円で、今月の価格が31円だった場合、今月のりんごの価格の指数は、30円=100なので、比例計算で以下のとおり103.3となります。

$$(\text{りんごの価格指数}) \quad 31 \text{ 円} \div 30 \text{ 円} \times 100 = 103.3$$

- **季節調整**：経済に関する時系列データについて、真の変動を把握するため、元データから季節による変動分（季節変動*）を取り除くこと。

※ 季節変動（季節性）の例

- ・ 夏にかき氷の販売が増える。
- ・ 冬にストーブの販売が増える。
- ・ 決算対策のため中間決算や決算の時期に生産や販売が増加する。

- **前月（期）比**：前月（期）からの変化率。

$$\text{前月（期）比} = \frac{\text{当月（期）の値} - \text{前月（期）の値}}{\text{前月（期）の値}}$$

* **足元の動き**を見るための目安になります。季節変動のあるデータについては季節調整済の値により比較します。

- **前年同月（期）比**：前年の同じ月（期）からの変化率。

$$\text{前年同月（期）比} = \frac{\text{当月（期）の値} - \text{前年の同じ月（期）の値}}{\text{前年の同じ月（期）の値}}$$

* 季節変動があるため単純に前月（期）と比較することができないものについては、前年の同じ月（期）と比較することで、季節的な要因を考慮せずに変化の方向性が見やすくなります。ただし、大規模災害など前年に特別な出来事の発生により大きく増減した場合には、その反動により当月（期）も大きく増減するので注意が必要です。

Ⅲ 宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

平成30年12月のC I（H22=100）は、先行指数 137.5、一致指数 140.4、遅行指数 156.4となった。

先行指数は前月差で 9.1ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

一致指数は前月差で 5.8ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

遅行指数は前月差で 0.1ポイント上昇し、2か月連続の上昇となった。

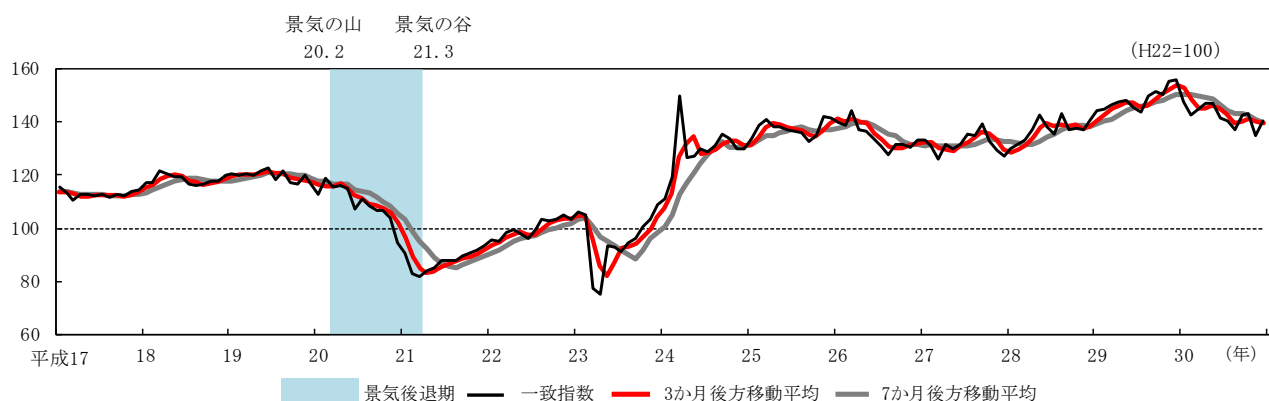
2 景気動向指数（C I）の推移及び個別系列の寄与度

(H22=100)

系 列 名		平成30年						
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	
先 行 指 数	C I 先行指数	135.3	136.9	140.8	147.6	128.4	137.5	
	前月差（ポイント）	-2.2	1.6	3.9	6.8	-19.2	9.1	
	3か月後方移動平均	139.0	136.6	137.7	141.8	138.9	137.8	
	7か月後方移動平均	143.8	141.3	140.3	140.8	138.7	137.7	
	L1 新規求人数(学卒除く, パート)	-1.39	-0.62	1.94	-1.07	0.65	0.05	1
	L2 投資財生産指数	0.80	-0.38	-0.90	0.17	-4.00	3.38	2
	L3 生産財生産指数	1.64	-1.16	5.12	3.12	-11.87	6.57	3
	L4 日経商品指数(42種)	-0.55	-0.40	0.58	-0.02	-1.00	-0.74	4
	L5 乗用車新車新規登録台数(軽含む)	0.17	0.97	-1.70	4.34	-2.98	-1.01	5
	L6 新設住宅着工床面積	-1.21	1.75	-0.25	-0.74	0.73	0.19	6
L7 全銀貸出残高(前年同月比)	-0.98	0.11	-0.92	0.04	-0.34	-0.25	7	
L8 中小企業業界景況感(前年同月比)	-0.82	1.18	-0.18	0.64	-0.43	0.92	8	
一致トレンド成分	0.15	0.16	0.21	0.38	0.03	0.02		
一 致 指 数	C I 一致指数	140.3	137.3	142.5	143.3	134.6	140.4	
	前月差（ポイント）	-1.1	-3.0	5.2	0.8	-8.7	5.8	
	3か月後方移動平均	143.0	139.7	140.0	141.0	140.1	139.4	
	7か月後方移動平均	144.4	142.9	142.9	142.7	140.9	140.0	
	C1 所定外労働時間指数(調査産業計)	-0.52	-1.93	1.66	1.14	-0.94	-0.31	1
	C2 有効求人倍率(合計)	-2.40	-1.43	0.24	-2.30	1.40	0.56	2
	C3 実質定期給与指数(製造業)	-1.60	0.98	1.31	-0.03	1.08	0.18	3
	C4 鉱工業生産指数	2.67	-0.99	1.88	2.62	-10.40	6.49	4
	C5 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)	-0.56	0.36	1.45	-2.21	0.23	0.53	5
	C6 輸入通関実績	1.25	0.03	-1.34	1.58	-0.05	-1.62	6
遅 行 指 数	C I 遅行指数	145.2	154.2	156.0	150.9	156.3	156.4	
	前月差（ポイント）	-2.7	9.0	1.8	-5.1	5.4	0.1	
	3か月後方移動平均	148.2	149.1	151.8	153.7	154.4	154.5	
	7か月後方移動平均	151.3	151.3	151.4	151.3	151.7	152.4	
	Lg1 離職者数(事業主都合)〔逆〕	0.06	-0.24	-3.10	1.03	-2.14	1.77	1
	Lg2 雇用保険受給者実人員〔逆〕	-1.83	1.00	-2.88	-2.08	2.46	-0.40	2
	Lg3 消費者物価指数(仙台市, 前年同月比)	0.61	0.00	0.68	-1.22	1.98	-1.24	3
	Lg4 勤労者世帯消費支出(仙台市, 前年同月比)	1.02	0.18	-0.32	-1.73	-0.85	0.96	4
	Lg5 営業倉庫保管残高	-2.33	-0.29	4.73	0.22	4.75	-2.32	5
	Lg6 法人事業税調定額	-0.40	8.14	2.44	-1.64	-0.92	1.32	6
一致トレンド成分	0.16	0.17	0.23	0.40	0.03	0.03		

(注)〔逆〕は逆サイクル系列を表す。

3 景気動向指数（C I）一致指数グラフ



IV 全国・東北等の景況

1 全国の景況	
月例経済報告（内閣府） 2月21日	[http://www.cao.go.jp/]
<p>景気は、緩やかに回復している。</p> <ul style="list-style-type: none">・個人消費は、持ち直している。・設備投資は、増加している。・輸出は、このところ弱含んでいる。・生産は、一部に弱さが見られるものの、緩やかに増加している。・企業収益は、高い水準にあるものの、改善に足踏みが見られる。企業の業況判断は、おおむね横ばいとなっている。・雇用情勢は、着実に改善している。・消費者物価は、このところ横ばいとなっている。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行き、海外経済の動向と政策に関する不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>	
経済・物価情勢の展望 —展望レポート— 基本的見解（日本銀行） 1月23日	[http://www.boj.or.jp/]
<p>わが国の景気は、所得から支出への前向きな循環メカニズムが働くもとの、緩やかに拡大している。海外経済は、総じてみれば着実な成長が続いている。そうしたもとの、輸出は増加基調にある。国内需要の面では、企業収益が高水準で推移し、業況感も良好な水準を維持するもとの、設備投資は増加傾向を続けている。個人消費は、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、振れを伴いながらも、緩やかに増加している。この間、住宅投資は横ばい圏内で推移している。公共投資も高めの水準を維持しつつ、横ばい圏内で推移している。以上の内外需要の増加を反映して、鉱工業生産は増加基調にあり、労働需給は着実な引き締まりを続けている。わが国の金融環境は、きわめて緩和した状態にある。物価面では、消費者物価（除く生鮮食品、以下同じ）の前年比は、0%台後半となっている。予想物価上昇率は、横ばい圏内で推移している。</p>	

2 東北の景況

管内（東北6県）の経済動向（東北経済産業局） 2月13日

[<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している

- ・ 鉱工業生産：持ち直しの動きとなっている
 - ・ 個人消費：足踏み状態となっている
 - ・ 住宅着工：高水準の中、ここのところ弱含んでいる
 - ・ 公共投資：減少しているが、復興事業により引き続き高水準にある
 - ・ 設備投資：持ち直している
 - ・ 雇用：改善している
 - ・ 企業倒産：小康状態が続いている
- (※前月と基調判断に変更がある場合は矢印で上下を示している。)

経済の動き（日本銀行仙台支店） 2月22日

[<http://www3.boj.or.jp/sendai/>]

東北地域の景気は、緩やかな回復を続けている。
最終需要の動向をみると、個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に、底堅く推移している。また、設備投資は、増加している。一方、公共投資や住宅投資は、高水準ながらも減少している。こうした中、生産は、緩やかに増加している。消費者物価（除く生鮮食品）は前年を上回って推移している。

地域経済報告—さくらレポート—（日本銀行） 1月10日

[<http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/>]

東北地域の景気は、緩やかな回復を続けている。
最終需要の動向をみると、個人消費は、雇用・所得環境の改善を背景に、底堅く推移している。また、設備投資は、増加している。一方、公共投資や住宅投資は、高水準ながらも減少している。こうした中、生産は、緩やかに増加している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。この間、企業の業況感は、横ばいとなっている。

3 宮城県の景況

宮城県の景況判断（七十七リサーチ&コンサルティング株式会社） 2019年1月

[<https://www.77rc.co.jp/flag/chousa/>]

総括判断

最近の県内景況をみると、震災復興需要の反動などから回復の動きが鈍化してきているものの、経済活動は総じて高めの水準で推移している。

概況

生産は全体では高めの水準となっているが、基調としては低下している。需要面の動きをみると、公共投資は震災復旧工事を中心に減少基調となっているが、なお高水準で推移している。住宅投資は、震災に伴う建替需要の反動などにより基調としては減少している。個人消費は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。雇用情勢は総じて改善している一方、一部で人手不足が企業経営の重しとなっている。

